

全林協会長賞

山口県

光市林業研究会

所在地 > 山口県光市

設立 > 平成11年7月

会員 > 男29人 女9人 年齢 > 57歳～87歳 平均70歳

主なプロジェクト

◆ 森の恵みを利用・活用しよう

◻ 森の恵みを利用・活用しよう ◻

1. 地域の概況

活動の拠点である光市は、山口県の東南部に位置し、瀬戸内海国立公園を含む自然環境に恵まれた気候温暖な都市です。西日本屈指の白砂青松の海水浴場である室積・虹ヶ浜海岸には、「日本の名松100選」、「森林浴の森日本100選」、「日本の白砂青松100選」などにも選ばれた美しい松林が広がっています。

光市の人口は約5万3,000人、総土地面積は9,194haで、その53%が森林です。どちらかといえば、都市型林業地域といえます。

2. 光市林業研究会の概要

(1) 生い立ち

山口県の主催で開講された林業教室の受講生が中心となり、昭和62年に光市林業研究会を発足させたのが始まりです。その後、市内の複数の林業研究グループを統合し、平成11年7月に現在の光市林業研究会が発足しました。

(2) 活動の目的

活動の目的は、会員の自主的なグループ活動を推進し、林業技術、林業経営の改善による生産性の向上と、地域社会の林業振興に寄与することとして

います。

特に最近では、森林は育てると同時に利用・活用することが大事との思いから、専ら「森の恵みを利用・活用」することに主眼をおいて活動しています。

さらに、活動の輪を子どもさんや地域の方々にも広げるため、体験交流会や学習会を開催し、各種イベントにも積極的に参加しています。

3. 活動内容

(1) 地域社会との連携による活動

光市主催の「どんぐり・松ぼっくり教室」での植栽などの指導や、「ひかりふるさとまつり」での森の恵みの販売・交流を行うなど、県や市や地域などが主催するイベントに積極的に参加・協力しています。平成25年度は13のイベントで指導者として活躍しました。



市民に植栽指導

(2) 森の恵みを利用・活用するための7部会制による自主活動

光市の森の恵みを利用・活用するために、会設立以来、様々な取り組みを行ってきましたが、それぞれの課題の解決に向けてより一層充実した取り組みを行うため、平成24年度に7つの部会を設置しました。会員は、以下の部会に所属して活動計画を立て、活動実施の際は他の部会メンバーも一緒に楽しく参加しています。平成25年度の活動参加人数は、延べ600人になりました。

① 山桜間伐材活用部会

光市では、放置されたモウソウチク林を伐採し、造林を行っていますが、特にヤマザクラの造林が多く、その造林木の多くが間伐期を迎えています。そこで、ヤマザクラの間伐材の有効活用を研究しています。

● 原木ナメコ栽培

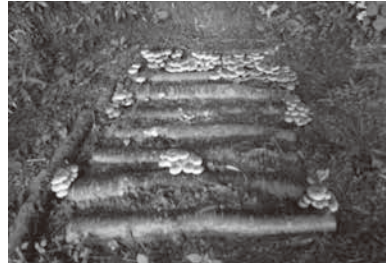
試験栽培を経て、現在100本の原木ナメコを栽培中、目標はヤマザクラ原木ナメコの家庭栽培への普及

・料理用燻製チップへの活用

市内の各種イベントや祭りで燻製用サクラチップの無償配布を実施し、一般家庭で手軽に使われるよう普及活動

・ヤマザクラの小枝や皮を木工細工に活用

小枝や皮を木工細工に活用し、年1回8月の夏休みに親子木工教室を実施(去年は30名の参加)



ナメコ試験栽培

② 草木染め部会

ヤマザクラを始め、多種多様な木々の染色に挑戦しています。その成果を活かして、草木染めの楽しさと森に親しんでもらうため、光市民を対象に「草木染め体験交流会」を毎年4～5回程度開催しています。これまで延べ160人の参加があり、林研へ新規加入される参加者もいました。

③ 竹材活用部会

約50年前までは生活用品として竹材はふだんに使われていましたが、その後、急激に化学製品に取って代わられました。それでも、竹を使いたいという思いから、市内のイベントで竹の一輪挿しや子どもたちへ竹トンボをプレゼントしたり、年末には森の手入れで出た松や梅の枝などを活用してミニ門松を制作・販売しています。

④ 学校森林体験部会



学校林の間伐指導

県農林事務所と連携し、平成25年度は地域の小学校3校で計5回の森林体験学習を実施しました。児童たちに、森林の働きや身近な木々の名前、森を育てる大切さなどを伝え、間伐や枝打ち体験などを指導しました。

⑤ シイタケ栽培部会

クヌギのホダ木を切り出し、コマを打ち、約1,000本のシイタケほ場を設

営しました。シイタケの収穫と選別・包装は地域の老人クラブに委託し、販売は地域の直売所で行います。森の恵みを活用し、老人クラブや地域の直売所と連携することで、新たな地域の循環とコミュニケーションが誕生しました。

⑥ 苗木育成部会

光市の海岸には西日本でも有数のクロマツ林が広がっています。クロマツの実生から育てるマツ苗は、海岸マツ林の保全に必要です。そのため、海岸クロマツから種子を採取して、マツ苗の育苗を行っています。

⑦ 女性部会

タケノコ料理体験交流会や、森の恵みを活かすための自主勉強会など、女性ならではの視点や発想を大事にした活動を実施しています。県内や周南地区の林業女性グループとの交流も積極的に行っています。



タケノコ料理体験交流会

(3) 先進地視察と会員の交流

林業技術や森の恵みの活用の新たな知見を得るために、年に1～2回先進地視察を行っています。平成25年度は大分県でシイタケ原木栽培と草木染工房を、山口県萩市で竹紙製造や草木染めを勉強しました。

会員相互の親睦を深めることにも役立っています。

4. おわりに

光市林業研究会の活動には、ことさら目新しい活動はありませんが、森の恵みを利用・活用し、その成果を地域に広げようとしているだけです。しかし、常に新しい驚きや発見があり、楽しく活動しています。

しかし、自分たちの活動だけでは、森林・林業の活性化が実現するとは思っていません。もし全国の人たちが等しく森の恵みを利用・活用したならば、山は動くでしょう。だから、私たちは今後もこの活動を楽しみながら続けていきます。